



2010年5月6日大阪市中央公会堂で開催された第4回SMTRCサルコーマセミナーで左から大西啓之さん、山村、高橋とキュアサルコーマセンターのブルゾンを着た川上裕義さん。

川上さんと最初にお会いしたのは2009年8月。大阪府立成人病センター内科の肉腫外来を奥様と一緒に受診された。地元習志野の病院で、後腹膜平滑筋肉腫の最初の手術を終えた時であった。その後、2010年1月、7月、2011年9月と3回の局所再発といずれも骨盤腔から鼠径部にかけての難度の高い腫瘍摘出手術に耐えた。その間も抗がん剤と分子標的薬による治療を行ったが、どの薬剤も腫瘍の増大を抑えることができなかった。

肉腫の世界に川上さんが残した足跡は大きい。2010年、患者さんにご家族の情報発信や交流にSocial Network System (SNS) の活用を提案し、大西さんとともに1-2カ月で“S-net (Sarcoma.net)”というコミュニティを作り上げた※。参加者は既に100名を越え、さらに増え続けているという。今では、外来を受診したS-net参加の患者さんからの情報が、キュアサルコーマボード共同治療連携から送られてくる情報より早く私たちの耳に届くことも多い。

私たちにとって忘れられないことは、昨年(2011)の11月21日「大阪ダブル選挙」の真っ最中、大阪府立成人病セン

ターの移転反対の係争がピークに達していたとき、3回目の再発手術後まだ腹部の傷が閉じていない状態で、入院先の熱海病院から外泊許可を得て大阪に来てくれたことである。川上さんは、政党の府議連幹事長と会い肉腫治療薬研究の必要性を説き、翌日、大阪府立成人病センター総長と面談し一人の肉腫患者として係争の早期解決を要望した。それから4カ月後係争は和解によって解決した。

麺類好きだった川上さん、「先生、成人病センターの向かいにてんぷらうどんの美味しい店を見つけたので、ちょっと行ってきます。」どこかで、川上さんの嬉しそうな声が聞こえるような気がする。

最後まで懸命の治療にあたられた国際医療福祉大学熱海病院の寺岡慧先生、矢嶋淳先生、淵野辺総合病院の大野烈士先生、亀田総合病院の大山優先生、中村能章先生、小山隆文先生に敬意を表します。私どもは、困難を承知で、生きるためにと治療に進むことを選ばれた川上さんのまなざしを忘れることはありません。肉腫の克服に向け一層の診療と研究努力を続けてまいります。

※S-net (Sarcoma.net)のHP

<http://curesarcoma.a.la9.jp/hiro/>

※S-netの管理は、井上 竜(りょう)さん[東京]が引き継がれます。

大阪府立成人病センター部長

高橋 克仁(くさね) (キュアサルコーマセンター代表理事)

大阪府立成人病センター研究員

山村 倫子(ゆんこ) (キュアサルコーマセンター理事)